時事新報

世の教育家に質す

山口　石川生

邊で在朝在野の教育家に尋ね申さん、生近頃某醫師の藥價領收書を見るに左の如く記しあり

右藥御懇賜確然拜戴異日謁見當謝深意也

との一文を見て世の教育家は如何なる感を起し給ふやそは決して教育家の一笑し去るべきものにあらず宜しく深く心を留め廣く考へ合すべきものなり

今彼の醫師が日本人の身を以て日本人の間に立ちながら漢學者のみにてもあらぬ世人に對して斯る迂遠な事を爲すこと如何にも笑止の次第なれども偖今吾等日本人が日常の文書に漢文を用ひんとせば皆この迂を學ばざるを得ざることにて夫の地方に時めく者等が己れ內に何の覺も無きに外に學者を裝ひ竊に他人に賴み作り貰ひたる漢文の祝詞などを公會の席に讀み上げて得色あるは笑止が上にも面惡き仕業と謂ふべし

今は昔と事變はり政府の公文を始とし學者の著作にも常人の私書にも漢文は絕へて用なき物なるに何の必要ありて之を年少き一般の學生に讀ましむる次第なるや固より我國の古典や支那の文物などを取調べんとする特志の學生には漢籍の修學も必要なるには相違なけれども今日普通教育の途中に在る一般の學生は未だ其學問の方針とても定らず只將來如何なる職に就くにもせよ先づ普通一般に入用なる學術を修め置かんとする者にて其心事もまだ單純なれば身外卑近の實物現象に對しても怪訝の念起り易く從て感應の力銳く博物諸科學の概略を修むるには復と得べからざる好時期に在る者なるに今日此等の學は敬して遠ざけらるゝ如く其授業時數の至て少きがためか之を教ゆる者も數字と記號とを以て純粹なる原理法則を說くのみにして兒童目前の實物、手近の事實を以て面白く可笑しく之を學に導くもの少なき有樣なるに引かへ

方以類聚物以群分自古邪正在朝未嘗不爲一黨不可禁也在聖聽辨之耳の如き或は

朝則以安才情學擢身於醫署之上夕則以優遊自得稱情於山水之間亦實哉の如き或は

豈敢砥礪廉隅競賽名譽乎の如き

今日十二三や四五の小供には容易に異味の分る筈もなく又覺へ書きたりとて後日の用にも立ち難き難澁なる文字を以て軟弱なる腦髓を苦むるは每日の事なるに倘は飽き足らざるものか白文訓點といへる手嚴しき法を以て詰めかけ押しかけ記臆より落つれば復た拾ひ込み理會に溢るゝも倘は掬ひ掛け爲めに記臆力は疲勞し理會判斷の能力は萎縮するも是れで智能の啓發なりとて平氣なるは實に言語に斷へたる次第ならずや

是れも東京の如き都會の地に在ては漢籍も世上の潮勢に壓せられて勢振はざるより其弊も自から少なきことなれども其他の地方にては舊流の風尙を改めず昔堅氣の先生が古人の文書を古風に效へ辭句の詮索、異說の評論に下手長談なるより孔臭の兒童も古文集などを抱へ廻はし言論に耽りて其有爲の才を枯らし多くは讀書三昧を以て學問の本意と心得其學問の使ひ所に窮するより山間僻村到る所に文學會を起し教育家を以て自から稱ふる者も進で之を助成し學事の日に非に赴くを悟らず果ては書物の外に教育なければ書物の外に學問なく教ゆる者も習ふ者も共に文字に醉ふの有樣となり百姓の子も大工の弟も雜誌の購讀、詩文の投書に金を失ひ時を費し刻苦勉勵怠らざるより勉勵の効空しからず日常居家の俗用勘定などには至極迂遠にして物の役に立たず田舍に居ては其學び得たる學問と共に其身も併せて無用の長物と爲り何時しか都會の地に驅出して後は故鄕の兩親に迷惑を掛け一身の方向に迷ふ者滿天下に甚だ少なからず其病根は果して何等の毒に由來したるものにして世の教育家には之を診斷するの明あるや否や若しも之を診斷し得たらば其療法は如何す可きや吾々の聞かんと欲する所のものなり

漢籍廢止を否とする者は文を作るに支那文の心得必要なりと云ふと雖も凡そ一國の言語文章は思想と共に發達し又增加するの約束にして我開國以來新思想の日に發達增加するからには言語文章も日に新にして之に伴ふ可きは自然の勢にして是れぞ即ち文明進步の徵なれば數千年前の漢文法を守りて今日の實用を辨ずるに足らざるは數に於て爭ふ可らず或は學校にても其作文に假名交りの法なきにあらざれども元より漢文素讀の讀み聲を其儘漢字と假名にて寫し取りたるものにて猶ほ英語の直譯の如し、去れば「仲尼間居曾子侍坐」の漢文を仲尼間居す曾子侍坐すと書き流せば夫れにて日本文なりと漢學者の心得たるより今日にても過去の作用言を用ゆべき所に現在用言を用ゐて少しも怪まざるのみか其假名を除き去り殘る漢字を轉倒配置して漢文に直ほり兼ぬる假名交り文は實用普通の文としては何の欠點なきも文を成さずとして斥けられ、「本屋」は「書肆」、「辨當」は「行厨」、「ランプ」は「洋燈」、「分り切つたるとなり」は「智者を待て而て後に知らざるなり」と一一普通の日本語を固くらしき語句に變へ「紙を無駄に使ふては往けませぬ」とは夫子自から他を警しむるの言葉なるにさて之を文に移さんには「師戒めて曰く紙を濫費すること勿れ」といふ如き窮窟なる文句に直ほさゝれば教師の承知せざるより學生は夫れ相應の考を腹に蓄ふるも之に應ずる漢語漢句を知らざる內は之を文に表はすこと叶はず、「バラバラト雨が俄に降り來り」を素直に記したりとて何の不都合もなかるべきに何分「驟雨沛然として下る」にあらざれば夕立の形容とならざる次第にて今日一般の學生は口には其思ふ所を立派に陳べ得れども其筆は鈍りて輕く動かず又其漸く筆の立つに至れば平易なる文を作るを好まざるのみか務めても作ること能はず何を書きても文句に細工多きより却て文意明了ならず從て讀者の區域を狹ばむるも年來の筆法は容易に改まらず例へば田舍の新聞雜誌が文面溫和にして誰にも近づき易く辭句の行儀正しくして嚴に失せざる平易な文を書く能はざるより愈よ勉めて愈よ得意の數を減ずるは誠に是非なき次第と謂ふべし

前陳の次第なれば今の學校の作文は所詮實用を離れて虛飾を貴び言文益す背馳して其文則語法を異にし時に或は相反し學生は文字に自由を欠ぐより其思想に自由を失ひ觀櫻の記とあれば十人が十人、百人が百人殆んど同樣一色の文句語調を以て古作の趣向を眞似るまでにて其自から內に思ひ感ずる事を文に現はすにあらず既に定り居る文句を彼是繋ぎ合はすに止まり日來より文集雜誌などにて辭句を調べ其文題と共に之を暗記し置き作文時間の課題に應じて見もせぬ事を書き立て花見に行けば樹間を縫ひ廻はりて無情にも枝を折り花を散らすはその小供等迄が其記文には「吟賞數刻林間を逍遙す」など思ひも初めぬことを陳ぶるも怪む者なく果ては事實に許すべからざる醺然醉ふて歸るを忘るなどの文句も文の上には咎めざる如きは今日作文課の通弊と視て可なり其弊の由て來る所は何處なるや、今更思案にも及ばざることなり

漢文の是迄我國に盡せる功勞は如何にも大なるものなれども唯今の場合に立ち至り視れば如何に情に於て忍び難ければとて有て害を爲し、無くて事缺けざるものを惜むこともあるべき是れも漢語漢文なる物が我國本來固有の物ともあらば致し方もなけれども元來隣國よりの借用物なれば篤く禮云ふて今日不用の漢文丈けを返したればとて兩國の交情を傷ふことはなかるべく、一任又それありとするも我國教育のため決して默止すべきことにあらず、實に今日我普通教育の上に就て第一の急務は漢文を全廢して實學諸科の普及發達を助くるに在り、第二の急務は漢文を全廢して文字教育の弊を減ずるに在り、第三の急務は漢文を全廢して我國語國文の進步を計るにあり、今日の學制は學者を造るに適し居れども一般の少年に居家處世の道を教ゆるものにあらず、そは今高等中學校なるものは大學の豫備校たるの傍ら實業に就く者を養ふ所となしあれど實際此種の校を卒へたる者が易く實業社會に入るを得るや却て其學問が妨げとなるを見ても知るべきなり世の教育家を以て自から任ずるの志士が我教育社會の實情を實視し實意を以て實際に實功を擧げんとならば徒に教育權の爭などに日を暮さんよりも別に勉ることは澤山ある可しと吾々の信ずる所なり

雜報

○製鐵に關する各特別委員會　製鐵事業調查委員の中より特撰したる三種の特別委員中鑛山視察の委員は本日午前より農商務省に會して視察の報告案を議定し又製鐵上の事項を調查すべき所謂第五項の委員も本日の午前より同省に集り牧野毅氏委員長として會議する筈なり而して製鐵所設立に關する事項を調查すべき委員の集會は世人の注意する處なれども未だ一回も委員會を開きたることなきのみならず此の先き何日を以て其會を催はすべきやも定まり居らざるなり然れども委員間の意向を察すれば本項の調查は三種の取調中最後に廻はしたる方順當なるべしとの說多きを以て自然躊躇しとなるべしとなり

○自由黨代議士總會　は一昨日午前九時より芝山內なる同黨事務所に於て開會せり出席者は板垣總理を始め河野廣中、星亨、松田正久、工藤行幹、山田東次等の諸氏外二十餘名にして土木會委員工藤行幹氏は土木會の經過に就て同會は是迄富士、天龍、大井、阿武隈の四大川治水工事費及び信濃、利根、最上、北上四大川の設計變更とを協議せしが其決議に依れば從來國庫より年々八十萬圓を治水費に支給し來りしを今回は更に八十四萬四千餘圓を增加して每年百六十四萬四千餘圓を支出する事と爲りたる旨を報告せり右終て同事業に對する同黨の方針を協議せしが何分重大の問題なれば直ちに決定し難きに依り別に委員を撰み調查の上再び協議する事と爲り其委員には工藤行幹、加藤喜右衛門、田中島雄の三氏當撰せり夫て午餐の爲め暫時休憩し午後一時更に會議を開き松田正久氏は福岡大分二縣下巡遊

の模樣を報告し
秘密の談話あ
來月十五日を期
國代議員に同
事を決議し午後

○播但鐵道
氏は過般來姬路
付き實地の取調
も亦充分の見込
に引續き臨時總
とに決し社長
取纏めの爲め
九日頃なるべし

○新潟港碇
雄、千代田、高千
する筈なりしが
同日は豫て常備
宴會を催ほすに
內し置きたるこ
ざるため見合と
暴風の妨ぐる所
の艦隊より五隻
ること及び上陸
して漕出したる
て川口に達した
測られざりしが
後一時頃燈明臺
一名水夫十一名
へ乘揚げたり右
盡力し水戶秋甚
隊に送り届けた

○新嘗祭の
執行相成べき新
獻納を出願する
て悉皆取纏め其
獻納品到着する

○商品取引
二回の創立委員
て昨十七日農商
に於て夫々取調

○水產試驗
麴町區違三町の
挽町なる同省構
なるが移轉後は
改稱するよし

○絲況敢て
電報も開通せず
薄手合ながら甲
松通館糸集據十
絲緯十二個八百
り九十番へ飛揚
六個未定益濱可
百七十束新聞館
全體の市況敢て
と昨日は銀行休
れも安直賣捌に